

/etc/make.conf

CPUTYPE のようなコンパイラフラグだけでなく、アップデートとかの設定が詳細に設定できる。
/usr/share/examples/etc/make.conf に雛形がある。

ソースツリーの UPDATE

CVSup に頼らなくても、/etc/make.conf に

```
SUP_UPDATE= yes
SUP= /usr/bin/csup
SUPFLAGS= -g -L 2
SUPHOST= cvsup.jp.FreeBSD.org
SUPFILE= /usr/share/examples/cvsup/stable-supfile
DOCSUPFILE= /usr/share/examples/cvsup/doc-supfile
```

としてやれば、/usr/src にて make update で更新できる。

Ports ツリーの更新

同じく /etc/make.conf に

```
PORTSNAP_UPDATE= yes
```

とすれば、/usr/ports にて make update で更新できる。

OpenOffice.org コンパイル

日本語 locale でビルドするには

```
.if ${.CURDIR:M/usr/ports/editors/openoffice.org*} != ""
LOCALIZED_LANG= ja
WITH_SYSTEM_FREETYPE= yes
.endif
```

としておく

BruteForceBlocker

FreeBSD-5 以降は PF を用いた BruteForce アタック対策が可能 /usr/ports/security/bruteforceblocker で bruteforceblocker をインストールする。

- ・ 5-STABLE では /usr/local/bruteforceblocker (Perl スクリプト) の中の

```
if (/*Failed password.*from (${work->{ipv4}}|${work->{ipv6}}|${work->{fqdn}}) port.*/i ||
/*Invalid user.*from (${work->{ipv4}}|${work->{ipv6}}|${work->{fqdn}})*/i ||
```

を

```
if (/*Failed unknown for illegal user.*from (${work->{ipv4}}|${work->{ipv6}}|${work->{fqdn}}) port.*/i ||
/*Illegal user.*from (${work->{ipv4}}|${work->{ipv6}}|${work->{fqdn}})*/i ||
```

と変更する必要があるようだ。 [参照](#)

PF を用いるので、 /etc/pf.conf の中で

```
table <bruteforce> persist file "/var/db/ssh-bruteforce"  
block in log quick proto tcp from <bruteforce> to any port ssh
```

をセットする。また、 syslogd と連動させるために、 /etc/syslog.conf に

```
auth.info;authpriv.info          | exec /usr/local/sbin/bruteforceblocker
```

を追加しておく。また、当然 /etc/rc.conf で

```
pf_enable="YES"  
pflog_enable="YES"
```

しておく。

マシン更新にともなうユーザアカウントの移行

まずは、旧マシンの /etc/master.passwd を新マシンにコピーする。OS が新しくなると予約されているアカウントが変わるため、必要な行だけコピーする方が良い。

```
# pwd_mkdb -p /etc/master.passwd
```

とすれば、旧マシンのユーザのパスワードが新マシンで有効になる。エラーがでなければ、 /etc/group も同様に必要な行をコピーする。

/usr/home と /var/mail を rsync を使って同期するが、その前に新マシンの sshd を一時的にルートロ
グイン可能にしておく。

/etc/ssh/sshd_config を編集し、

```
PermitRootLogin yes
```

としてやる。そして、旧マシン側から、

```
# rsync -av -e ssh /usr/home/ root@新マシン IP:/usr/home  
# rsync -av -e ssh /var/mail/ root@新マシン IP:/var/mail
```

IP はホスト名でもよいが、コピー元のディレクトリ名の後に「/」はつける必要があるので注意す
る。コピー先は「/」をつけてもつけなくても同じ。

無事コピーが終わったら、ユーザディレクトリやメールスプールの所有権を確認し、最後に
/etc/ssh/sshd_config を

```
PermitRootLogin no
```

と戻して完了。